

市区町村

8/27
福井

国保料35%が上昇予想

来年度運営移管で

来年4月に国民健康保険（国保）の運営主体が市区町村から都道府県に移る制度変更に伴い、福井県内の4市町ない市町村の35%は来年度、保険料が上がる予想したことなどが26日、共同通信の調査で分かった。【5面に関連記事】

保険料の急激な上昇抑制なども図られたが、高齢者や低所得者が多い国保加入者の負担増が懸念される。都道府県への移管は、慢性的な赤字を抱える国保を圧迫する」として、財政基盤を安定させるのが狙い。現在は市町村の判断で保険料を決めるものもあり、国の支援に対する

1市町村を対象に実施。回

答した1572市町村のうち、保険料が「上がる」と予想したのは34・8%に当たる547市町村。「下がる」は3・5%で「変わらない」が13・5%、「分からない」が48・2%だった。

福井県内の自治体は敦賀町以外の16市町が回答。保険料について越前市、池田町、越前町、若狭町が「上がる」と予想した。永平寺町は「ほぼ変わらない」。11市町は「分

からない」とした。

上がる理由（自由記述）は「他の市町村に比べて医療費水準が高い」「保険料を低くするための一般会計からの繰り

り入れがしつぶぶる」「国幅変動」が38・0%と圧倒的に多い。「事務上の負担増やミズ」の18・3%、「システムトラブル」の15・5%が続いた。県内では、「上がる」へへの懸念も多かった。

と予想した4市町を含む多くのが「保険料の大額変動」に懸念を示した。「医療費抑制や保険料徴収への圧力」への懸念も多かった。

